

研究公正の推進のために必要な取り組みとは？

研究者、行政、社会の取り組み

菱山豊（徳島大学）、松澤孝明（文科省）、浅井文和（ジャーナリスト）

田中智之（京都薬科大学）、中村征樹（大阪大学）

オンライン：6/23（木）15:00-16:30

1. 研究公正の取り組みの現状とその限界：話題提供・浅井、中村
2. 今後どのように研究公正を進めるのか：話題提供・田中
3. JST-RISTEXプロジェクトのご紹介：田中、中村

研究公正の推進をどう進めるか？

研究者

研究倫理教育：座学、研修、研究室内

研究機関

研究室の運営：PI教育、ハラスメント対応

学会

学会の役割：専門的領域のガイドライン作成

研究公正の専門家の育成

行政

ガイドラインの整備

不正調査の監視

複数の研究機関をまたぐケースの取り扱い

研究公正に関する知見の集約・蓄積

メディア

研究不正が与えるインパクトを伝える

不正の背景についての報道

誰が研究公正を推進するのか？

研究倫理の啓発・教育
研究倫理の相談員（助言機能）

疑義の調査や評価には関わらない

オンブズパーソン（独ほか）：高名な研究者、主に不正の予防
研究公正アドバイザー（豪）

不正疑義の調査
研究倫理の啓発・教育

適切な手続きで不正調査を進める

研究公正官(RIO)（米）：法的な問題に関する知識ももつ

- ・ 最初は手探り？ 専門性がある業務→キャリアパスがある方が良い
- ・ 専門家をどのように育成していくか？
- ・ 業務の重要性・意義を共有するには？

研究公正の専門家の育成

科学社会学、研究倫理、科学技術社会論
ELSI/RRI、科学コミュニケーション

監視・調整・裁定機関

研究公正局(ORI, NIH)、監察総監部(OIG, NSF)
スウェーデン、フランスでも設置の動き





ライフサイエンスにおける誠実さの概念を 共有するための指針の構築

田中 智之（京都薬科大学）／加納圭（滋賀大学）
／標葉隆馬（大阪大学）／小出隆規（早稲田大学）

信頼できる研究者／危ない研究者

研究者の多くは同じ領域の研究者の研究の質を（内面的に）評価している

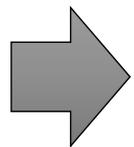
信頼できる研究者

結果に再現性がある
容易に結論めいたことを言わない
議論の中で生データを要求する
ひとつの結論を得るために複数の実験をする



危ない研究者

研究に一貫性・整合性がない
生データを出すことを渋る
ひとつの実験結果でたくさんのアピールをする



研究者の「誠実さ」を見分けるポイントがあるはず…

プロジェクトの内容と期待する効果

田中智之（京都薬大） 加納圭（滋賀大学）
標葉隆馬（大阪大学） 小出隆規（早稲田大学）

ライフサイエンス研究者へのインタビュー調査



半構造化インタビュー
フォーカス・グループ

大規模質問紙調査
(Webアンケート)



生物科学学会連合
(会員：32学会、のべ90,000人)



クロス集計
回答パターン分類
共分散構造解析など

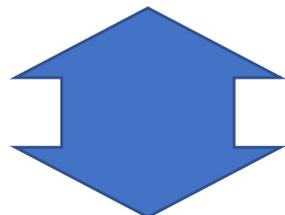
ガイドラインの作成・提案



競争的研究費の審査
人事選考
研究室セミナーなど

ガイドラインの普及活動

学会シンポジウム
SNSの活用
ワークショップの開催



行政との連携
「誠実な」研究像の共有
人的ネットワーク・人材育成



質の高い研究
より適切な研究評価
研究不正の抑制